

環境ビジョン

Vision

カシオは、2050年を見据えた長期的な環境経営方針である「カシオ環境ビジョン 2050」を、2012年4月に制定しました。また、中期的な行動指針である「カシオ環境宣言 2020」を同時に制定し、持続可能な社会の実現に向けてグローバルに活動を推進し、環境先進企業を目指します。

2050年を見据えたカシオの環境経営

トップコミットメント

小型・軽量・薄型・省電力のモノづくりにより、新しい市場の創造と文化の形成に貢献するとともに、持続可能な社会の実現を目指します

2011年3月11日に宮城県沖で発生した東日本大震災は、直後に発生した大津波の影響もあり、東京電力福島第一原子力発電所の複数のプラントにおいて火災、炉心溶融、放射能漏れ事故を誘発し、1年以上経過した今でも終息できていない状況です。

安全性確認のため、2012年5月には原子力発電所がすべて停止し、関西電力大飯原子力発電所の3、4号機が再稼働の見通しにあるものの、電力の供給不足が懸念されます。

枝野経済産業大臣は、記者会見で「2011年夏に東京電力及び東北電力管内で実施した電気事業法に基づく電力使用制限令は発動しない」意向を提示しています。カシオでは、稼働日や業務のシフト対応は不要になるものと思いますが、「節電」については、業務に支障のない範囲で、継続実施を行っていきます。

その一方で、東京電力管内では、電力料金の値上げが実施されます。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度導入に伴う、既存電力料金の値上げと、原発が停止したことにより、代替となっている火力発電の燃料費の負担増に起因する価格改定です。企業向けは4月以降、契約更新時から17%の値上げとなるため、さらなる節電対策と、投資対効果を見極めた上で再生可能エネルギー設備の導入を検討していきます。

●国際動向

2011年12月には、気候変動について話し合うCOP17が、南アフリカのダーバンで開催され、2つの方向性がまとまりました。2012年まで目標が定められている京都議定書については、2013年以降のいわゆるポスト京都議定書の取り組みとして、今回新たに、2013年以降も京都議定書を延長すること、2020年に中国と米国を含む新たな枠組みを発効することを盛り込んだ「ダーバン合意」が採択されています。しかしながら日本は、京都議定書の延長には反対を表明し、この枠組みには加わずに2013年以降自主的な取り組みとして削減に取り組むこととなりました。

また、一昨年名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議：COP10に続いて、今年、インドのハイデラバードで、COP11が開催されます。ここでは、2012年までの戦略目標の指標による評価方法や、持続可能な利用に関して話し合われる予定となっています。

さらに、国連が主催する「リオ+20（トゥエンティ）」が、2012年6月にブラジル、リオデジャネイロで開催されました。1992年に同じくリオデジャネイロで開催された「気候変動枠組み条約」や「生物多様性条約」が署名された地球サミットから、ちょうど20年目の節目として開催されるもので、今後のグリーン経済や持続可能な開発に対する制度的枠組みが話し合われました。

これらの動向は、大きな流れを生むものであり、カシオが今後どのようにかわり、どのように貢献していくのかを認識しておく必要があると考えています。



代表取締役副社長 榎尾 幸雄

●工業会動向

電機電子業界でも、現在、地球温暖化対策として、企業活動から間接的に排出される温室効果ガス（購入部品を調達する上で、部品メーカーで排出される温室効果ガスや、廃棄・リサイクルの段階で排出される温室効果ガスなどの）いわゆる「スコープ3」カテゴリーの温室効果ガスを把握し、削減につなげていくことが重要であるとして、検討がスタートいたしました。

さらに経団連は、2013年以降の温室効果ガス削減に向けて、現在進めている2012年までの自主行動計画から、さらに一歩進めた「低炭素社会実行計画」として、未達成の場合の罰則規定も盛り込んだ削減計画（電機電子業界は、原単位で年率1%削減が目標）をスタートさせることが決まり、当社もカシオグループとして、参加いたします。

また、生物多様性の保全に対する取り組みも、各社の取り組み事例を情報共有し、今年度は、工業会としての活動指針をまとめることとなりました。

一方 環境省が主体となって進めている「小型家電リサイクル制度」が徐々に具体化されてきています。製造メーカーの責務としては、解体の容易性への配慮と、再生材の利用促進が求められております。当社グループの製品も小型家電の対象品目として、多くが該当するため、動向を見極め、適切に取り組んでまいります。

これらの工業会の動向は、カシオの環境経営に密接に関係するため、工業会方針に沿った活動を積極的に進めていきます。

●格付け動向

カシオは、環境への取り組みの課題抽出のため、DJSI（ダウジョーンズ・サステナビリティ・インデックス）、CDP（カーボンディスクロージャー・プロジェクト）、日経環境経営度調査の3つの格付け調査に、毎年参加を行っています。

2011年度は、DJSIにおいて、アジアパシフィック・インデックスに2年ぶりに復帰採用となり、CDPについては、情報開示レベルが前年度の中レベルから、1ランク上位の高レベルにランク付けされることとなりました。その一方で、今年度から導入されたパフォーマンススコアでは、AからEまでの5段階評価で、Dランクの評価となっており、改善が必要となっています。

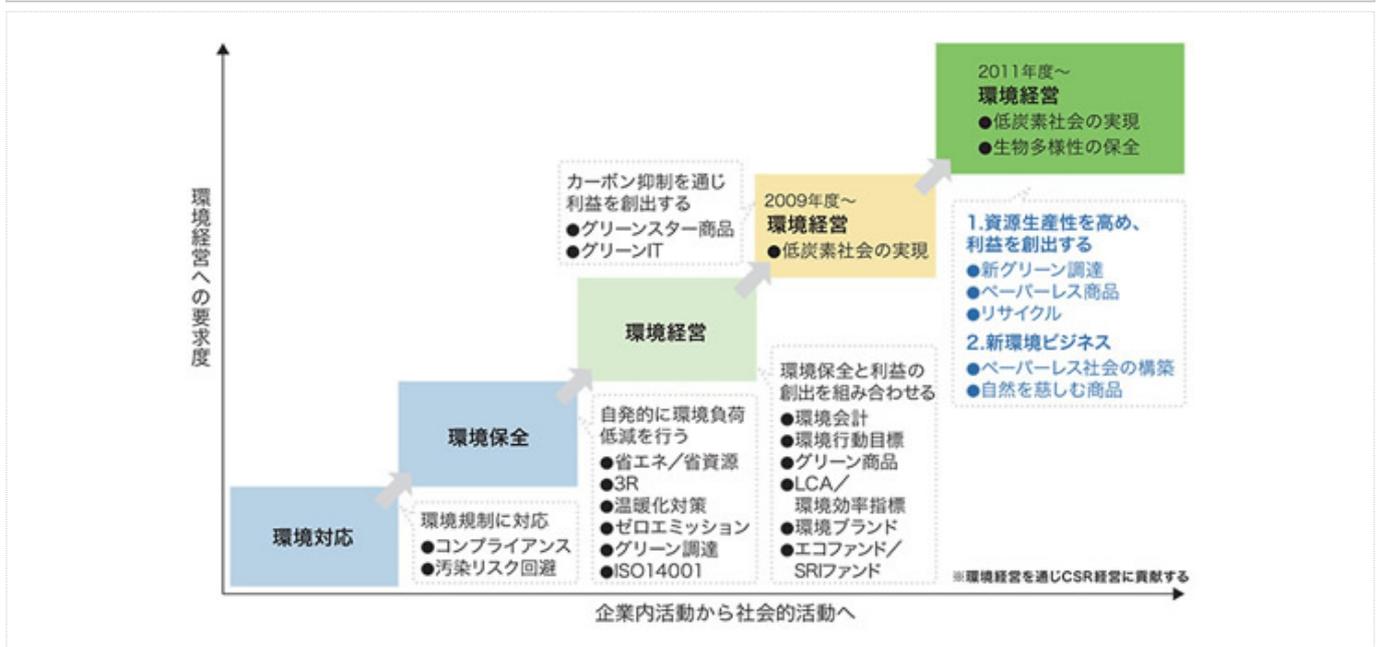
日経環境経営度調査では、一昨年の33位から、昨年は475社中27位にランクアップすることができました。

良好な格付け結果を維持し、改善していくためには、さらに、「自助努力による（設備投資を前提とした）温暖化対策」、「環境マネジメントシステム範囲の拡大」、「環境報告における網羅性、比較可能性、適時性」などの課題に対し、優先度の高いものから対応していく必要があります。

●今後の方針

カシオが目標とするのは、「環境先進企業 カシオ」のブランド力向上にあります。小型、軽量、薄型、省電力である製品作りを通じて、またペーパーレスを実現する製品を通じて、環境への貢献とともに、カシオブランドの向上を進めていきます。

環境経営の新たな取り組み



資源生産性の向上については、

カシオが得意とする小型・軽量・薄型・省電力製品は、投入する資源（部品／材料、動植物由来の材料）が少なく済み、地球温暖化にも生物多様性の保全にも貢献しています。

今後も、

1. 資源生産性を向上させることで、他社製品との優位性を訴求し、ブランド力の向上と共に利益を創出していきます。

- ・新グリーン調達（生物多様性に関わる確認事項を追加）
- ・ペーパーレス商品の拡大（電子辞書、データプロジェクター、デジタルカメラなど）
- ・リサイクル（レアメタル・貴金属、プラスチックの検討と推進）

2. 新環境ビジネスとして

- ・ペーパーレス文化の構築に寄与する製品や仕組みの導入
- ・自然を慈しむ商品の拡大
（アウトドア志向製品：プロトレック、EXILIM G、GPS内蔵デジタルカメラなど）

に取り組むことで、事業貢献につなげていきたいと思えます。

2012年度は、地球温暖化対策への取り組みとして、すでに環境行動目標として掲げている2020年度30%削減に向けた具体的なアクションプランを策定し、実現に向けた施策を立案することと、生物多様性保全への取り組みとして、3月31日付けで制定した「生物多様性ガイドライン」に基づき、順次、「事業活動における生物多様性に関する影響評価」を行い、「カシオの事業活動が、生物多様性に対して問題の無いこと」を確認していきます。

これらの取り組みを通じ、持続可能な社会の実現と共に、環境先進企業カシオの基盤強化を積極的に進めていきます。

2012年度環境経営方針「持続可能な社会の実現に向けて」

環境先進企業カシオの確立を目指した事業活動と製品貢献を積極的に推進する

1. 温室効果ガス削減のための施策検討

- ・東日本大震災後の環境変化に対し、徹底した節電／省エネ対策を継続する
- ・中長期目標達成に向けたアクションプラン検討（政府のエネルギー政策を考慮）
- ・再生可能エネルギー（太陽光パネル）のパイロット導入

2. グリーンスター商品開発、グリーンオフィス化の推進

- ・グリーンスター商品開発：小型、軽量、薄型、省電力技術の強化
- ・グリーンオフィス実現のためのペーパーレス化の推進

3. 環境経営改善のための戦略立案、推進、社会要請への対応

- ・DJSI/CDP/日経環境経営度調査の精査による課題抽出、施策立案、推進
- ・スコープ3への対応（CO₂の間接排出量把握）
- ・環境報告の改善策立案と推進
- ・環境経営／環境推進範囲の拡大
- ・ISO14001導入済の3事業所（本社／八王子／羽村）統合

4. 生物多様性保全のための施策検討、推進

- ・カシオグループとしてのガイドラインに基づき、影響度評価を含めた生物多様性保全のための活動を検討／実施する

カシオ環境ビジョン 2050 と カシオ環境宣言 2020

「カシオ環境ビジョン 2050」と「カシオ環境宣言 2020」は、カシオを取り巻く社会状況の変化に対応し、環境経営をさらに進化させていくために、それぞれ「カシオ環境ビジョン」と「カシオ環境宣言」を改訂したものです。

カシオ環境ビジョン 2050

2050年に向けて、カシオグループは、地球の財産である「エネルギー」「資源」「生物」の持続可能な利用と共生について、独自の取り組みを考え、実行します。

新しい価値観やライフスタイルを、今までにない市場や文化として創造し、人々の心の豊かさと健全な地球環境の持続に貢献できる環境先進企業を目指します。

環境先進企業・・・「0→1」を生み出すカシオ、その斬新な発想と先進の技術力に基づいた製品やサービスの創造および環境活動を通じて

- ・低炭素社会の実現
- ・資源循環型社会の実現
- ・自然との共生

に貢献していきます。

カシオ環境宣言 2020

2020年に向けた行動指針

1. 低炭素社会の実現

カシオグループは、CO₂の削減や吸収に、より一層貢献する製品やサービスを提供していきます。

また、太陽光・風力・水力などの人と地球にやさしいエネルギーを利用する製品やサービスを拡大していくとともに、これらの再生可能エネルギーを事業活動に取り入れていきます。

2. 資源循環型社会の実現

カシオグループは、地球の貴重な財産である物質・材料、水の効率的な利用、代替および再利用を図り、資源生産性をさらに高めていきます。

3. 自然との共生

カシオグループは、生物多様性の保全活動を通じて、地球を大切にすることを育み、自然循環と事業活動の調和に取り組んでいきます。